

株式会社奥村組名古屋支店 本郷寮

Okumura corporation Nagoya branch company dormitory at Hongo

No. 04-011-2019作成

新築
集合住宅

発注者	株式会社 奥村組	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO ₂ 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	株式会社奥村組東日本支社一級建築士事務所 OKUMURA CORPORATION	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
施工	株式会社 奥村組 名古屋支店	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

環境性能に配慮したBCP対応型社員寮

代替拠点としての社員寮

本計画は老朽化に伴う奥村組社員寮の移転計画である。近年頻発する自然災害等による被害、液状化、地震による津波、大雨による河川の氾濫等を考慮し、計画地を選定した。

名古屋支店がある名古屋駅周辺は、その利便性に反して水害が懸念されている。そのため、本施設が有事の際の対策本部を含む代替拠点となるようBCPにも配慮した。計画地は名古屋市営地下鉄東山線本郷駅から徒歩3分の閑静な住宅街である。前面道路から壁面ラインを後退させることで周辺に圧迫感を与えないように配慮しながら高い環境性能を実現し、免震構造とするなど防災機能を備える建物とした。



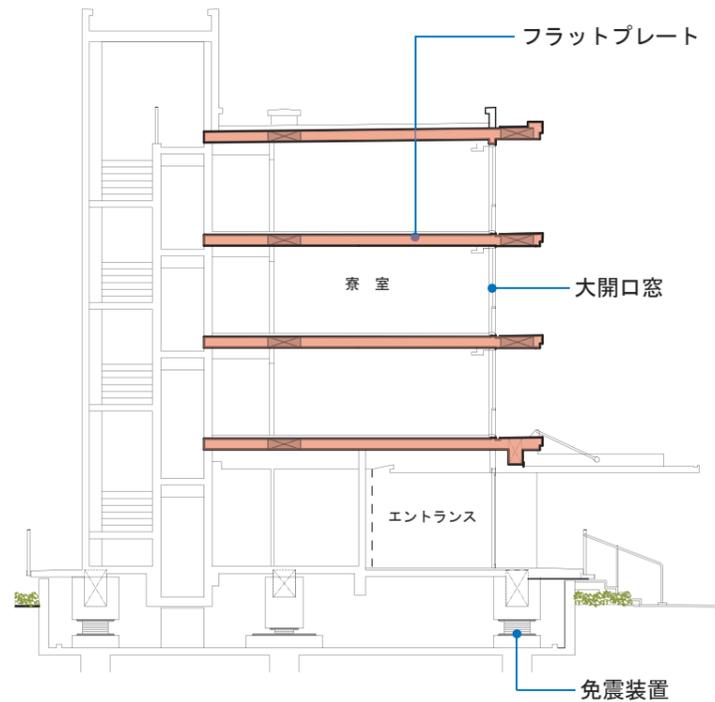
外観写真

フラットプレート工法とファサードデザイン

建物の構造形式には当社が技術性能証明を取得しているフラットプレート工法を全面的に採用した。梁がスラブに内蔵されるため、天井までの大開口窓が実現可能となった。また、免震構造により実現したスリムな壁柱と、梁型のないフラットプレートの水平ラインでメインファサードを構成し、フラットなスラブを柱で受けるという構造の特徴を表現した。

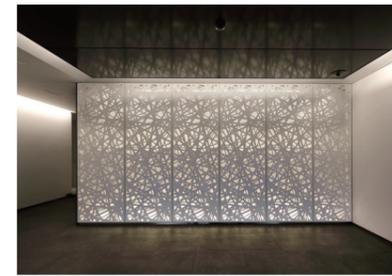
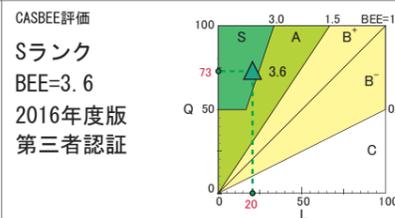


寮室内



建物データ	所在地	愛知県名古屋市
	竣工年	2019年
	敷地面積	795㎡
	延床面積	1,264㎡
	構造	RC造
	階数	地上4階

省エネルギー性能	BEI	0.68
	LCCO ₂ 削減	29%
	BELS	★★★★★



エントランス



食堂 リビングスペース

環境性能に配慮した内装計画

室全体を照らすアンビエント照明を間接照明とし、光源が直接目に入らない柔らかい光で演出した。照度だけでなく明るさ感覚による評価も取り入れ、帰宅した社員がリラックスできる空間を目指した。また、優しさや温もりを感じさせるように、食堂の天井ルーバーや壁に用いた木材に愛知県産の杉を採用することで、地場産業の貢献にも配慮している。



大浴場



食堂 ダイニングスペース

BCP対応の1階共用スペース

食事を提供する食堂、1日の疲れを癒す大浴場などの共用スペースを1階に集約した。食堂はリビングスペースとしてリラックスできる空間、社員同士の交流の場として利用されるが、災害発生時には対策本部として機能するよう十分な広さを確保するとともに、停電時に照明や通信機器に充電が可能なよう非常用電源や衛星電話を備えている。

CASBEE「Sランク」を取得した環境性能

基礎免震構造に加えて、躯体材料は劣化対策等級3相当とし、建物の耐用性・信頼性を確保した。省エネルギーの観点から、高断熱仕様やLow-eガラスを採用し、日射による熱負荷の抑制に努めた。寮室はタスクアンビエント照明とすることで作業スペースの照度を確保するとともに、食堂は床吹き出し空調とし居住域を効率的に空調する計画とした。また、地下免震ピットの空気を取り込んだクールトレンチや階段室を利用した重力換気を採用し、空調・換気エネルギーの削減を図った。使用材料については、高炉セメントB種やリサイクル内装材、クリーンウッド法適合の木材等を使用するなど、非再生性資源の使用量を削減した。これらの複合的な取組みにより、第三者認証によるCASBEEの最高ランクである「Sランク」を取得した。また、これらの取組みによってBEI値は0.68となり、BELSにおいても「☆☆☆☆」を取得することができた。

<p>建物の耐用性・信頼性</p> <p>基礎免震 躯体材料の耐用年数：劣化対策等級3</p>	<p>Low-Eガラス</p> <p>日射取得型のLow-Eガラスを採用することで北側寮室の冬季の空調エネルギーを削減</p>	<p>タスクアンビエント照明</p> <p>間接照明(アンビエント照明) スタンドライト(タスク照明) 作業時はタスク照明で照度を確保することで、照明の消費エネルギーを削減</p>	<p>タスクアンビエント空調</p> <p>食堂は床面に空調吹出口を設け、居住域を集中的に空調することで、空調エネルギーを削減</p>
<p>クールトレンチ</p> <p>年間で安定した温度を保つ地下免震ピットの空気を取込み、換気エネルギーを削減</p>	<p>重力換気</p> <p>階段室を介し、地下免震ピットより給気塔屋より排気する重力換気とすることで空調エネルギーを削減</p>	<p>リサイクル材の使用</p> <p>高炉セメントB種の使用 免震層に高炉セメントB種を使用し、内装においてもリサイクル材の使用することで非再生性資源の使用量を削減</p>	<p>地元産の木材使用</p> <p>内装仕上げに愛知県産の杉を使用することで地産地消や地域産業の振興に寄与</p>

設計担当者

統括：川端克尚/建築：矢野香里、中西史子/構造：横田聡/設備：大西広貴、久田梨紗

主要な採用技術(CASBEE準拠)

- Q2.2 耐用性・信頼性(基礎免震、劣化等級3)
- Q3.1 生物環境の保全と創出(自生種の採用等による生物環境の創出)
- Q3.3 地域性・アメニティへの配慮(地域産材の利用)
- LR1.1 建物外皮の熱負荷抑制(Low-eガラス、断熱等級4を超える水準)
- LR1.3 設備システムの高効率化(LED照明、BEIの向上)
- LR2.2 非再生性資源の使用量削減(リサイクル材、クリーンウッド法適合材の使用)